

# 蘇れ海の幸

## 日本の資源管理最前線

不安と向き合い前進へ



＝ ③ ＝

【不安③協力体制はついで、漁業管理も協力されけるか】

北海道留萌でナマコ漁の管理を引っ張った漁業者が、他業者米倉宏氏は「ナマコは外から泳いで来ない。がない」という不安を抱地元の資源を守るのが大切」と語る。泳ぎ回らない資源は、増えると地元め、どんな努力がされて漁業者が直接もつかるのきたのだろうか。



大きな網目で大きなサワラを狙う（香川県農政水産部水産課提供）

### 現場が行政

### 巻き込む

瀬戸内海サワラ漁 瀬戸内海のサワラの漁獲は1987年に約6000トあったが、98年に

「関係者の納得を得るため、管理の根拠が大事だった。漁業者からの要請で県や国の科学者が応えたい」と（香川県）。漁業管理は県内の異なる漁法や地域に広がり、98年には県外でも本格化。国は0歳魚の人工ふ

意識が高まった。沖繩市周辺では資源が減っており将来が不安。今は耐える時と将来を見据える。今後、「サイズ違反の魚を出回らせない監視、漁業者を増やし過ぎないための規則づくりなどが課題」（柳田氏）という。

# 漁業者が声上げ広域協力

## 科学者や行政と協調

200トに激減。この間、資源量は推定1万6000ト超から700ト強まで落ちた。未成魚の獲り過ぎなどが原因とみられ、97年、香川県の刺網漁業者らは、小さなサワラをすり抜けさせるための網目の拡大や、自主休

沖繩市周辺でも、漁業者が14年からマクブの漁獲体長を自主規制。19年から県の規則にした。自主規制を主導したあわせ、はやや里海漁業協議会の柳田一平会長は「以前、小型魚を守ろうという漁業者は『おかしな人』扱

魚の獲り控えなどを進め、07年には漁獲枠を守り話し合いながら、各月の漁獲枠を漁船個別に割り当てて順守した。「03年の取り組みから、漁業者の間で『資源管理をやってみよう』との機運

### 科学者が管理促す

#### 沖繩マクブ漁

取り組みに反対する漁業者も多かったが、「本

沖繩県北部の漁業者ら

という人がいて、徐々に

ら、国の支援の下で未成

た。07年の取り組みはス

（東京支社・太田毅人

